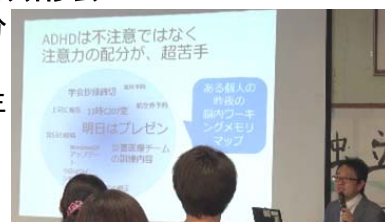


## 病弱教育研究部会 赤江まつばら支援学校の取組

本校では、毎年夏季休業中に病弱部会の研修会を行っております。本年度は、宮崎大学より武田先生をお招きして講演をしていただきました。本校職員はもとより、宮崎市内の小中学校や他の特別支援学校からも30名ほどの参加があり充実した研修会となりました。

### 平成29年度宮崎県特別支援教育研究連合病弱教育研究部会研修会

- 日時 平成29年8月28日(月) 午後1時30分～3時30分
- 会場 宮崎県立赤江まつばら支援学校 多目的室
- 講師 宮崎大学安全衛生保健センター 教授 武田龍一郎 先生
- 演題 「発達障がい、心身症等のある子どもの指導について」
- 講演内容



- 発達障がいの基本的な概念及び発達障がいへの対応のヒント
    - ・ 自閉症スペクトラム(ASD)は「社会性」「コミュニケーション」「想像力」の三つ組みの障がいであること
    - ・ 発達障がいへの対応のヒント  
曖昧さをなくす、数値化する、図や絵で説明する、シングルタスクを心掛ける、マネージャー役を設定する、本人の行動の結果ではなく努力やプロセスをよく聴き評価する
  - 心身症の定義や例及び心身症への対応
    - ・ 心身症の例  
ぜんそく、脱毛や抜毛、過敏性腸症候群、起立性調節障害、過換気症、頭痛 等
    - ・ 心身症への対応  
まずは正しい診断から、支援者がこころと体のバランスの具合を見極めるが決めつけない、本人が自分の状態について「気づき」を得られること、他の精神疾患との区別が難しいときや一月以上経っても病状が思わしくないときは専門家に相談すること
  - 児童虐待や愛着障がいに関する情報
    - ・ 児童虐待は心や身体の発達に大きく影響すること
    - ・ 「虐待」という言葉から「マルトリートメント」(不適切な養育)という言葉での表現へ
    - ・ 愛着障がいへの対応  
健全な愛着の築きなおし、粘り強く支援すること
  - 心理的発達の理解を助ける知識の情報
    - ・ 心の理論課題、誤信念課題、メタ認知、メタ記憶、心の発達の段階
  - 幼児期・小学校低学年へのコミュニケーション
    - ・ 幼児期・小学校低学年児童と接するときのコツ(→これは大学生にも通用するそうです!)  
表情やしぐさをマネする(ミラリング)→特に男性の先生は意識して!、言葉をマネする(オウム返しする)、セルフトーク(先生今から考えてみるね…などと支援者の内面を口にする)、パラレルトーク(涙が出たね…などとその人の様子をトークしてやる)、会話を発展させる(つまり…他には?…こういうことかな?…などと聞き手の理解を伝え、相手の言わんとしていることを補う)
- 5 参加者からの感想(一部抜粋)
- 具体的な事例を交えたお話だったので、イメージがしやすかった。
  - 内容も非常にわかりやすく身近なテーマだったので、自分の身の周りに置き換えて考えることができた。
  - 興味深い内容で、大変勉強になった。
  - 実践に生かすことのできるものばかりであった。
  - 医療の立場から話を聞く機会があまりないのでよかった。
  - 日々の教育活動にどう生かしていくかが課題である。

研修会の最後に、発達障がい・心身症・被虐待、いずれにしても、本人の物語を大切に支援することが重要だと先生が言われました。今後は、医療との連携をしっかりと、目の前にいる子ども達のこころに丁寧に寄り添い、この研修で学んだことを支援に生かしていきたいと思っております。